



季刊

弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

I ZUMO Y AYO I N O M O R I M U S E U M



マスコットキャラクター
よすみちゃん

第6号 (2012年7月)

今年の夏は、
国富中村古墳に注目!!

①国富中村古墳発見10周年 記念シンポジウム

「国富中村古墳のお葬式」

日時 8月4日(土)

13時30分～17時00分

場所 平田文化館(出雲市平田町)

▼講演

「西日本の古墳時代のお葬式」

田中良之 氏

(九州大学大学院)

▼報告1

「中村古墳のお葬式」

坂本豊治 (当館)

▼報告2

「近畿地方の後期古墳のお葬式」

森本 徹 氏

(大阪府立近つ飛鳥博物館)

▼パネルディスカッション

「国富中村古墳のお葬式」

コーディネーター

花谷 浩 (出雲市文化財課)

【入場無料】

②国富中村古墳 石室見学会

日時 8月5日(日)

9時00分～15時00分

集合場所 出雲市国富町

国富コミュニティセンター

定員 先着150名【見学無料】

受付で整理券を配付します。その番号順に、ハンゴを使って天井の隙間から石室内に入ります。動きやすく、汚れてもいい服装でお越しください。待ち時間が長くなる場合に備え、水分補給等の準備をお願いいたします。

①②ともに申し込みは不要です。
当日会場へ直接お越しください。

③特別展

「よみがえるな!」

—国富中村古墳のお葬式—



7月14日(土)～9月24日(月)

【観覧料500円(高校生以下無料)】

●ギャラリー展示

「横穴墓に刻まれた壁画
～出雲市・深田谷横穴墓群ほか～」

古墳時代後期(およそ一四〇〇年前)、死者を葬るため、国富中村古墳のような横穴式石室のほかに、山すそを横方向に掘り込んだ横穴墓がつくられました。

それらの中には、墓室や棺に赤・青・白などの顔料で描かれた文様や絵画、鋭い刃物で刻まれた線刻画などをもつものがあります。その絵の意味には、当時の人々の死生観が反映されていると考えられます。今回の展示では、出雲市芦渡町の深田谷横穴墓群をはじめ、県内の横穴墓の壁画を紹介いたします。(高橋 周)



深田谷横穴墓の壁画

7月11日(水)～10月15日(月)

【観覧無料】

★特集 研究ノート⑥

「よみがえるな！」の意味

「よみがえるな！」とは、出雲弥生の森博物館の二〇一二年特別展のタイトルです。この「よみがえるな！」とはまさしく、死者の「よみがえり」を否定する言葉です。この言葉に見合うことが、六世紀末頃に、出雲市国富町の国富中村古墳で行われていました。

国富中村古墳は、二〇〇二年五月二日、道路工事中に発見されました。直径約三十メートルの円墳で、その内部に横穴式石室があります。調査の結果、石室の入口は完全に封鎖されており、一四〇〇年前の埋葬当時のようすがそのまま残っていました。一般に、古墳は盗掘にあい、埋葬時の状況が残されていないことが多いのですが、未盗掘墳を確認した今回の発見は、全国的にみても貴重なものです。石室は複室で、それぞれに石棺があります。奥の部屋には家形石棺が、手前の部屋には箱形石棺があります。

家形石棺に死者が埋葬されて死後十数年後、おそらく、遺体が石棺外に出されたと考えられます。

それは、遺体を飾っていた装身具が棺外にあったことから推察できます。さらに、石棺の蓋石を壊しています。蓋石には二ヶ所に打撃痕があり、故意に壊されたことがわかりました。また、墓の主に添えられていた大刀、弓矢、馬具なども壊されて、石室内にばらまかれました。手前の部屋でも同じようなことが行われています。

遺体を壊し、また、死者に関係するモノを壊すことで、それらの機能を停止させ、死者がよみがえって来ないようにしたと考えられます。実際には、祖先の遺体やモノを壊すことで、次の世代がその権威を引き継ぐ意味があったのでしょうか。

これがこの古墳で行われた最後の儀礼です。過去の研究では、石室内での壊す行為やばらまきは後世の盗掘者によるものと考えられてきましたが、この古墳の発見によって、その考えを改める必要があります。国富中村古墳の調査によって、古墳時代の出雲のお葬式の内容がわかってきたことは、当時の他界観を考える上でとても重要です。

(坂本豊治)

★博物館のおしごと紹介②

「子供たちへ歴史を伝える」

当博物館では、展示や解説、各種講座や教室など、様々な活動とおして市民の皆さんへ歴史学習の機会を提供しています。今回はその中でも、当館の特徴を活かした学校教育活動の一例を紹介しましょう。

出雲弥生の森博物館は、出雲市が行う遺跡発掘調査の事務所機能も備えた独特の施設です。そのため、発掘調査の成果をダイレクトに博物館活動へ活用できます。今年の5月、こうした館の特徴を活かした学校教育活動を出雲市立塩冶小学校の皆さんと実施しました。



遺跡を見学する塩冶小学校のみなさん

(写真は弥生時代の竪穴住居)

【発掘調査現場での歴史学習】

5月15日、塩冶小学校6年生139名の皆さんを、小学校近くの「神門寺付近遺跡」発掘調査現場へご招待しました。弥生時代の竪穴住居跡や弥生土器、奈良時代寺院の瓦などを見学しました。児童の皆さんは教科書で学習する弥生人の暮らしや奈良時代の仏教文化に直に触れて興味津々の様子でした。

【博物館での歴史学習】

続く5月30日、塩冶小学校6年生の社会見学のコースに当博物館が組み込まれ、児童の皆さんをご案内しました。史跡公園や常設展示のほか、速報展示コーナーでは「神門寺付近遺跡」出土品も見学しました。遺跡と博物館双方を見学することによって、古い歴史も身近なものとして学習していただくようになります。

子供たちに地域の歴史を伝えるて行くことは、博物館の仕事のなかでもとても大切なことです。こうした活動を通じて、一人でも多くの子供たちが次世代の歴史の語り部として成長してくれることを願っています。

(須賀照隆)

★文化財課のおしごと紹介①

「ウミネコ生態調査」

国指定天然記念物「経島のウミネコ繁殖地」として知られる出雲市大社町日御碕の経島は、古くは日御碕神社の下の宮があり、神職以外の上陸は許されない神域として守られてきました。現在、経島では、ふ化したウミネコの雛たちが親鳥とほぼ同じくらいの大きさになり、巣立ちを迎えようとしています。

出雲市では文化財保護のため、一九七一年（昭和46）に大田市在住の中井春治氏をウミネコ生態調査専門調査員として依頼し、毎年3月の飛来状況、4月の産卵状況、5月のふ化状況の調査を実施し、記録を蓄積しています。



ふ化状況調査実施の様子
(経島にて)

今年度は産卵に10日程度の遅れがみられましたが、ふ化した雛の数は1120羽で、30年平均（826羽）を大きく上回り、9年ぶりに一千羽を越えました。

一方、ウミネコは環境指標動物であり、自然環境の変化や人災による海洋汚染などを、人々に教えてくれる大切な生き物です。また、エサとなる鯛やイカの群れを追って海上を移動しますが、海面に鯛などの大群を発見すると鳥山を作るため、その下にいるブリなどを獲る地元漁師にとっても古くから大切にされてきました。

出雲市では毎年の繁殖状況を皆様に報告すると同時に、古くから人と係わりの深いウミネコを今後も見守っていこうと考えています。

その経島で、一九六一年（昭和36）からウミネコ生態調査を実施してこられた中井春治氏（現在87才）が、平成22年度の調査をもって高齢を理由に引退されました。出雲市は中井氏の50年にもわたる調査成果をまとめ後世に伝えるため、報告書の執筆を依頼し、このたび刊行することになりました。

た。ウミネコの生態や調査結果はもとより、ウミネコ一筋に半世紀を生きた中井春治氏の心温まるエピソードも掲載されています。
(安田晋也)



◆規格・A4版26ページ
(巻頭カラー)

◆編集・発行・・・出雲市

◆著者・・・中井春治

◆価格・・・1冊500円

◆販売・・・出雲弥生の森博物館
(出雲市文化財課)

※郵送販売については出雲市文化財課へ問い合わせください。

【電話】21-6893

博物館速報展示コーナー（売店横）では、文化財課の発掘調査状況を随時展示、紹介しています。ぜひお立ち寄りください。

【観覧無料】

★イベント・レポート

●来館者10万人達成！！！！！！



開館2周年も間近な4月26日、10万人目のお客様（大阪府・長谷川様）をお迎えしました。

●弥生の森まつり開催！！！！！！

4月28日・29日には、開館2周年に合わせ、地元の「弥生の森おまつり」さんと弥生の森まつりを開催しました。天候にも恵まれ、たくさんのお客様で賑わいました。

大津小学校6年生による古代体験学習発表の様子 →



←賑わう屋台村
(弥生の森おまつり)

博物館の裏側探検隊の様子 →



★博物館講座のご案内

▼特別展開連講座(全3回)

第1回 7月14日(土)

「よみがえるな!」

—国富中村古墳のお葬式—

【講師】坂本豊治(当館)

第2回 7月28日(土)

「愛媛県松山市

葉佐池古墳のお葬式」

【講師】栗田茂敏 氏

(松山市埋蔵文化財センター)

第3回 9月8日(土)

「黄泉国訪問神話と

中村古墳のお葬式」

【講師】高橋 周(当館)

右の講座はいずれも

●時間 14時〜16時

●受講料 無料

●定員 80名

博物館はお盆の期間中も
休まず開館しています。
帰省中のご家族とご一緒
にお出かけください。

★博物館イベントのご案内

▼第2回里見香奈杯争奪

出雲弥生の森ジュニア将棋大会

7月22日(日) 9時〜

合わせて市内の高浜一遺跡から出土した日本最古の将棋盤を展示します。(将棋大会の出場申込みは終了していますが、当日の見学は自由です。)

▼弥生の森体験教室

「草木染め」

8月11日(土) 14時〜

自分で摘んだ「藍」の葉で、ハシカチの「生葉染め」に挑戦!

●参加料 無料

●定員 20名

●受付 7月20日から

▼弥生の森お月見コンサート

9月22日(土) 18時〜

秋の一夜、お月見と素敵な演奏で癒しのひとときをお過ごしください。(弥生の森おまつ主催)

●前売券 500円

(中学生以下無料)

8月上旬から発売予定。
お尋ねは天津コミセンまで。

【電話】21・0172

★館長コラム②



『アルマエ・ロマエ』という漫画が大評判のようです。題名はラテン語で「ローマの浴場」。帝政ローマの時代、西暦二世紀の浴場設計技師が、現代日本の浴場にタイムスリップを繰り返すという奇想天外なお話です。イタリアでローマ時代の浴場跡の発掘に再三参加した私は、買って読んだばかりか映画まで見てしまいました。

ローマ時代の浴場は、日本の温泉などとは桁違いの規模をもち、冷浴室、温浴室、熱浴室、蒸し風呂、運動場などを順繰りに利用する巨大なヘルスセンターです。

私が発掘したのはシチリアの海岸にある貴族の別荘跡で、見事なモザイク床の部屋や浴室をたくさん備えていました。熱浴室などは床下に広い空間を作り、一端にある開口部から熱気を入れて床を暖めるだけでなく、部屋の壁に並べて埋め込んだ陶製の管にその熱気を通し、壁も熱くなるように工夫してありました(写真参照)。
イタリアで富裕層がこんな風呂

に入って奴隷にアカ擦りをさせていたころ、はるかかなたの日本では各地で有力な王家が台頭していました。『アルマエ・ロマエ』の主人公が同時代の出雲にワープしていたら、若き日の出雲王から巨大な王墓の築造計画を打ち明けられたかもしれないね。



壁暖房装置の発掘

(渡邊貞幸)

※各種講座・イベントは、当館へ電話またはFAXでお申込みください。

(発行) 出雲弥生の森博物館 2012年7月

〒693-0011 鳥根県出雲市大津町 2760

(TEL) 0853-25-1841 (FAX) 0853-21-6617

(e-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp

http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori

●入館料/無料(特別展等観覧料を除く)

●開館時間/9:00~17:00(入館16:30まで)

●休館日/火曜日(祝日の場合翌日)・年末年始